第18編　染色助剤並びに工業薬品

染色助剤や工業薬品は数多くあるが，この項では大島紬に使用される薬品で，機屋さんの参考資料になる薬品名や，使用法について記すことにしたい。

1．染色助剤

○　アゾリン

ペースト状の液で，合成染料の均染剤や泥染糸のソーピング剤，及び糊抜き剤等に使用される。使用量は0.1～0.5％。泥染糸の水洗ソーピングに使用しても良いが，洗浄力が強く，泥染をはぎ落とす恐れもあるので，少量使用すること。又，糸の淡色染に均染剤として加えても良いが，多く加えると逆に，染着がにぶるので，適度に使用すること。

○　アミラジンD

ペースト状の液で，泥藍抜染の助剤に使用される。使用量は3g／ℓ。このアミラジンも上記アゾリンと同様，均染や洗浄剤に使用しても良いが，強力な助剤であるから，使用量には十分注意すること。

○　ナモール

液状のもので，絣ムシロの淡色染の際染液に混合して，十ノ字を切らすのに使用する浸透剤である。使用量は0.3％程度であるが，染色する色や絣の状態により，増減して使用すること。

○　プレスタピットオイルV

ペースト状の液で，主に摺込染の浸透剤と絽糸染の均染剤に使用する。使用量は，摺込液には0.05％。絽糸染には0.1％程度使用する。但し，摺込液に多く加えると，締めた中まで浸透汚染する恐れがあり，又，浸染で多く加えると，逆に染着がにぶるので多く使用しないこと。

○　グリエシンA

ペースト状の液で，含金属染料等の溶解剤で，使用量は染料と同量加えて煮沸溶解する。

○　シルクフイックス3A

パウダー状のもので直接染料。酸性染料及び含金属染料，染色の水洗いに対する，堅牢度増進剤である。使用量は0.5～1％を温湯で溶解して加え，20～30分間染糸を浸漬した後，必ず水洗いすること。このフイックス剤を多く使用すると，糸がねばくなり，防水すると共に，次の染料，助剤が付着しにくくなるほか，製

織の絣調整がしぶくなること。又，シリコンと混合して使用するとか，フイックス処理後水洗いしないとか，濃く使用してシリコン処理すると，ゲル化し不溶解性の物質が糸に付着するので，使用法には十分注意すること。

○ アミゲン

液状のもので，直接染料の水洗に対する堅牢度増進剤である。使用量及び使用法は，上記シルクフイックスに順じておこなう。

○ ライトフィックスA

液状のもので，直接染料の水洗に対する堅牢度増進剤である。使用量及び使用法は，上記シルクフイックスに順じておこなう。

備　考

上記3つの色止剤は，合成染料染色に効果があるのであって，泥染や植物染料及び藍染には効果はないので，この染色に処理しても意味のないことである。

○ 酢　酸

液状のもので，合成染料染色の助剤である。使用法については，色大島紬染色法の編等で記してあるので，ここでは省略する。

備　考

この酢酸は合成染料で，絹を染色する際の助剤であって，色止剤ではない。したがって合成染料や泥染及び植物染料で染色した糸に処理しても意味のないことである。又，染色した糸に処理すると，色が止まったように見えるが，これは色が落ちなくなっただけのことで，染色の堅牢度は向上していないこと。

2. 洗剤及び石鹸

○ モノゲン

泥状又は液状のもので，洗剤や均染剤に使用される。特に，泥染糸の水洗ソーピングに適する。使用量は0.2～0.5％。なお，このモノゲンを多く使用すると，糸染では染着が悪くなるほか，泥染糸の水洗では，泥染をはぎ取ることになるので，最適な量で処理すること。

○ ランドリンNT

液状のもので，摺込染した絣糸の水洗いで，他への汚染を防止する洗剤である。

使用量は10g／ℓの割で大量の水で洗うこと。又，泥染糸の水洗ソーピングにも適する洗剤である。

○ **タナクリンA**

上記，ランドリンと同じ。

○ **ライト及びゲンブマルセル石鹸**

粉末又は固型状や針状のもので，絹糸の精練剤や脱色剤及び，洗剤等に使用される。又，糸染の均染剤として使用しても良いが，多く使用すると，逆に染着が悪くなるので，適度に使用すること。なお使用法は，各染色編で記してあるので，ここでは省略する。

○ **加里石鹸**

泥状のもので，洗剤や脱色剤として使用される。使用量は0.5～2％。

3. アルカリ剤

○ **苛性ソーダ**

粒状及び板状，並びに塊状のものがあり，泥藍絣の部分抜染剤や植物藍の発酵還元剤等に使用される。使用法は，各染色編で記してあるので，ここでは省略する。なお，この苛性ソーダは，絹糸を溶解し，又危険な薬品であるから，取扱いには十分注意し，さらには湯で溶解すると，その湯が噴き上がるので，離れて湯を加えること。

○ **炭酸ソーダ**

粉状又は結晶のもので，生糸の精練剤として使用されるほか，シャリンバイの抽出剤としても使用される。この薬品もアルカリ剤であるから，大量に絹糸を処理しないこと。

○ **重炭酸ソーダ**

上記，炭酸ソーダと同じ。

○ **ソーダ灰**

上記，炭酸ソーダと大体同じ。

4. 抜　染　剤

○ **ハイドロサルファイトAコンク**

粉末状のもので，合成染料や泥藍絣の抜染剤である。使用法は，各染色編で記してあるので，ここでは省略する。この薬品の保管は湿気を防ぎ，冷暗所に置き，ぬれた手等で取り扱わないよう，いつも密閉しておくこと。又，粉状でハイドロ特有の臭気があるのは良質であるが，塊状になったものや，長くなったものは，

効果がなくなっていることがあるので，このようになっているものは，使用しないこと。

○ デグロリンSコンク

合成染料の部分抜染剤で，摺込糊100ccに12～15gの割で混合して摺込し，蒸熱処理すると，その部分だけ抜染される。

○ ロンガリットC

上記，デグロリンと同じ。

5. 糊　剤

○ フノリ

この糊は海藻で，煮沸して溶解するが，少し時間を要して溶解したほうが，糊の粘度が良い。このフノリは，絣締め用の堅糊付けにも適するが，地タテ糊や，絣仕上げ糊に最適な糊である。ところがこの糊は，黄味が着くので，白紬にはあまり使用されないが，これを白くする方法として，水晒しと乾燥を繰り返して，できる限り白くする方法と，糊を煮沸溶解中，少量のハイドロサルファイトを加えると，フノリは白くなる。

○ イギス

この糊は海藻で，奄美には赤イギス（平たくしているもの）とムルイギス（丸くしているもの）とがあり，赤イギスの方が粘度は堅い。煮沸して溶解するが，時間を要して溶解した方が，粘度は良い。絣締め用，堅糊付けに最適な糊である。欠点としては，糊が冷えると糊が堅くなり，糊付けがしにくくなるので，暖いうちに糊付けすること。

備　考

フノリ及びイギスも市販のものがあるので，上記に順じて溶解して使用する。

○ カゼネートPG

白い粉末状のもので，絣締め用糊付けにも適するが，この糊だけで糊付けすると，酢酸や含金属染料及び，熱処理によって糊がゲル化し，絣が溶けなくなるので，カゼネートで白糊付ける時は，3分の1以上，フノリかイギスを混合して糊付けすること。又，水で溶解するが，完全に溶解するには半日以上を要し，煮沸溶解しても，2時間以上しないと溶解しないので，前日で溶解しておくことが必

要である。次に，この糊は地風が堅くなるので，白紬以外は仕上げ糊に使用しない方が良い。

○ C.M.C. 及びセロゲン

上記，カゼネートＰＧと同じ。

○ サイロンＢＢ

ペースト状の糊で，糸どうしくっつかない性質があるので，絣の糸くり用淡糊付けに適する。使用量は，水１ℓにサイロンＢＢ70cc程度の割の水溶液で，淡糊付けする。次にこの糊は，地風が堅くなるので，地タテ糊や絣タテ糊には使用しない方が良い。

○ メイプロガムＣＲ

粉末状のもので，摺込液調製用の糊に適する。使用量は，水１ℓにメイプロガムＣＲ約30g の割の粘度が，部分摺込染用に適するが，摺込液の調製法によっては，前以って堅い目に溶解して置き，目的の染料を調合し，少量の水で溶解した後，この糊と水を加えて，摺込液の量と粘度を調整して，摺込液を造る方法も良い。又，粉末の糊を加える場合は，糊の溶解が遅いので，時々撹拌し１・２日を要して粘度の加減を調べ，好みの粘度に調製する。

6. 油 脂 剤

○ ライトシリコンM807S

ペースト状のもので，平滑及び柔軟の働きがあり，泥染紬の仕上加工に使用される。この薬品の処理法は，前記第17編に記してあるので，この項を参照のこと。

○ シリコーラン

上記，ライトシリコンと同じ。

○ オリーブ油

泥染紬の亜美剤として使用するが，こればかりで処理すると，泥藍紬の藍色がくすむとか，絣調整がしぶい等の欠点があるので，ライトシリコンの補助として使用する。乳化したものを販売していると思うが，乳化されているか，否かについては，オリーブ油を２・３滴水に落とし，撹拌すると白くなるのは，乳化したオリーブ油である。なお使用法，前記第17編を参照のこと。

○ 種　　油

上記，オリーブ油と同じ。

○ **オリノール**

このオリノールは，亜美剤や仕上げ剤でもなく，種油を乳化する薬剤である。これを付け加えて説明すると，種油を水に入れると，種油は水に浮いてしまう。これは種油と水との表面張力によって，両者がなじまないためであるから，この表面張力をなくして油と水がなじむようにするのが，このオリノールである。この乳化法は，種油70にオリノール30の割で，オリノールを撹拌しながら，少しずつ種油を加えると，種油は乳液状になる。これを保管びんに入れておき，使用する時は強く撹拌してから使用すること。

○ **パスラン**

エアゾール式，シリコン油である。これはシリコンと同じである，吹き付け式になっているので，製織しながら処理できるのが利点であるが，これを多く使用すると，色ムラや紬を悪くするので，少量使うことが大切である。又，泥染紬の色ムラの補正にも使用されることがあるが，これは専門家にさせること。

備　考

1. 各薬品の使用目的と使用量及び処理法を表にして，作業場に置いて処理法を間違わないようにすること。
2. 薬品は冷暗所に置き，名表紙がなくなったら，必ずつけておき，密閉しておくこと。又，入れ物の破損にも注意すること。
3. 各薬品の性質を知り，取り扱いには十分注意すること。
4. 使用量や処理法を必ず守ること。
5. 薬品を数多く買って，どれがなにに使用するのか分らない状態にならないこと。